



## 2 盲導犬と歩んで二十年

佐藤夏江氏

隣にいるフローラは3頭目で2014年3月に我が家に来ました。一人で自由に外出したいという願望がありましたので盲導犬が来てくれて本当に速く歩けるし、とにかく嬉しかったです。気仙沼では盲導犬の珍しさもあって皆さん近づいてきたり触ったりします。そんな時はいつも皆さんに「盲導犬には声を掛けしないでください」「盲導犬に触らないで下さい」とお願いしています。盲導犬がお仕事に集中できないと盲導犬ユーザーに危険が及ぶ場合があるからです。

盲導犬は生き物ですから食事やトイレの世話など大変な事もたくさんあります。でも盲導犬がいることで通院や買い物、そしていろいろな方と出会うことができました。私にとっては、これからも在宅生活を支えてくれる大事なパートナーであり家族の一員です。

## 3 高次脳機能障害と共に気仙沼で生きていくために

一般社団法人コ・エル 副代表理事 小林明美氏

高次脳機能障害という後遺症は脳卒中や交通事故や転落事故による頭部外傷等、様々な原因で脳が部分的に損傷されたため記憶、思考、感情など認知機能に起こる障害で、外見からは気づかれず『見えない障害』などと言われます。進行性ではなく長期にわたり改善することもある後遺症です。この後遺症が世間に認知されてまだ20年程ですから、それまでの当事者とその家族は周りから誤解や偏見で大変なご苦労をされた事と胸が痛みます。

息子がこの後遺症と生きることになった18歳からの10数年、気仙沼市立病院、気仙沼保健福祉事務所はじめ地域施設の方々が「気仙沼だからこそできる支援」を一緒に考えてくださったお陰で、私は孤独など感じることなく息子の障害に向き合えましたし、事業所立ち上げに参加する勇気も持てました。

誰よりも苦しく辛く悔しい思いをしている当事者が『新しい自分』で幸せになるため、多くの方がこの障害を正しく知ることで「気仙沼に住んでいてよかった!」と感じられるような地域を皆様と目指していきたいと思っておりますので今後ともよろしくお願いいたします。



## 4 認知症の家族を介護して

後藤淳子氏

「介護認定制度や後期高齢者と名称された」同時期に舅、姑の介護生活が始まりました。当時は制度を利用することが犯罪者の様に見られる時代でしたので頼る事が出来ないまま、舅は肺気腫と前立腺がんを患い97歳で亡くなりました。姑は75歳頃からちぐはぐな行動を繰り返す様になりましたが、その頃は痴呆の事をよく理解していなかったため、出口の見えない真っ暗なトンネルを歩いて要る様な毎日でした。しかし、デイサービスを使う事は出来ませんでした。がショートステイは何十回も利用する事が出来ましたし、ご近所の方々の助けもあり、自分の時間が出来た事で乗り越えられたと思っています。8年前からは、主人が悪性リンパ腫で再発を繰り返し、最近では下咽頭癌になりこれまでの抗がん剤治療と70回以上の放射線治療の為、認知症になりました。これまでの経験を活かして介護生活を乗り切っていきたいと思っております。

